

3. 地域別の公共施設の実態

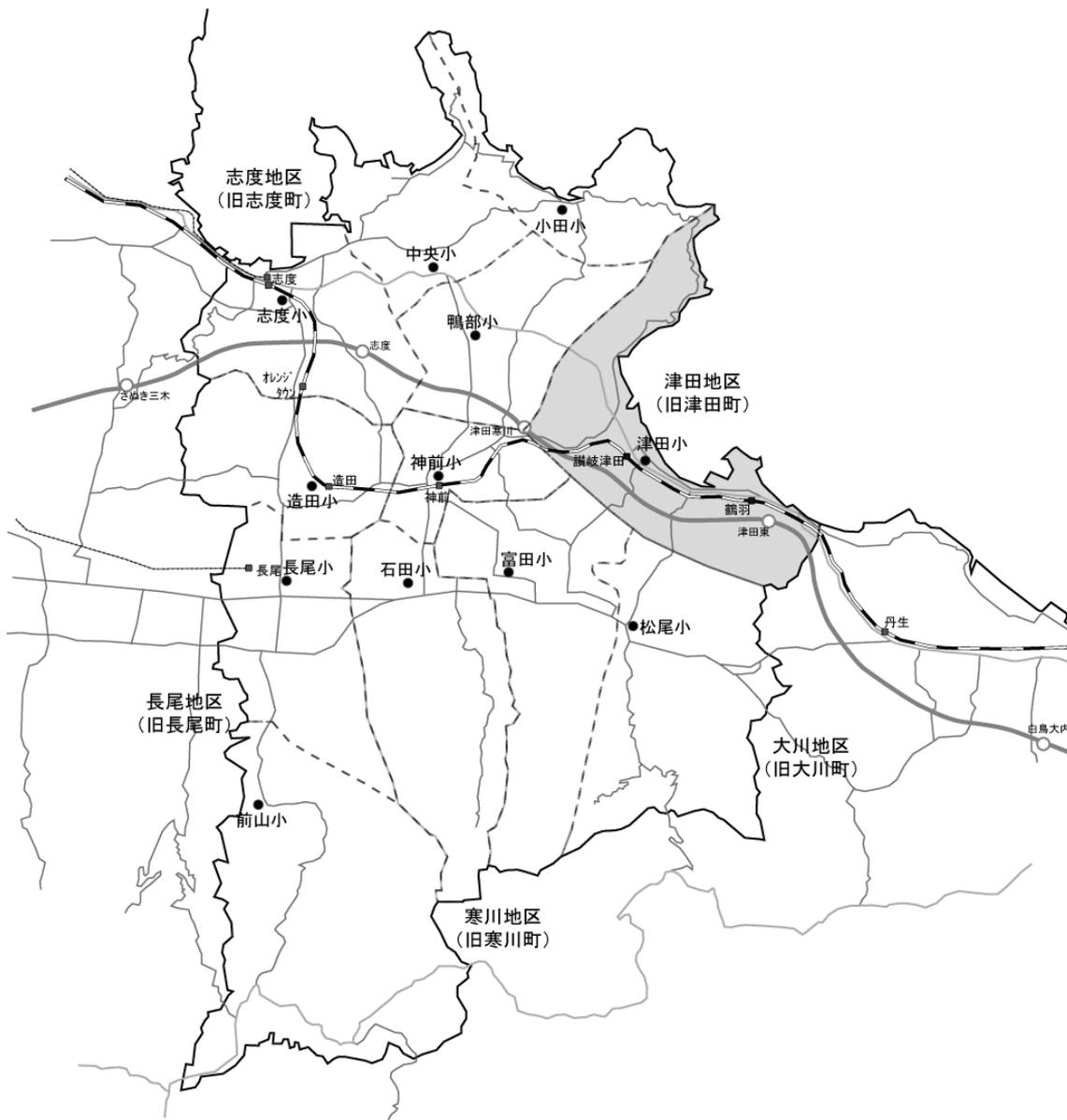
3. 地域別の公共施設の実態

3-1. 津田地区（旧津田町）

（1）地域特性

さぬき市の北東部の津田湾（瀬戸内海）に面した位置にあり、国道 11 号や JR 高徳線沿線に集落や公的機関が集積しています。

津田湾南岸には津田の松原があり、臨海・漁業資源を活かした健康・癒し関連の観光・レクリエーション・交流拠点としての役割が期待されています。

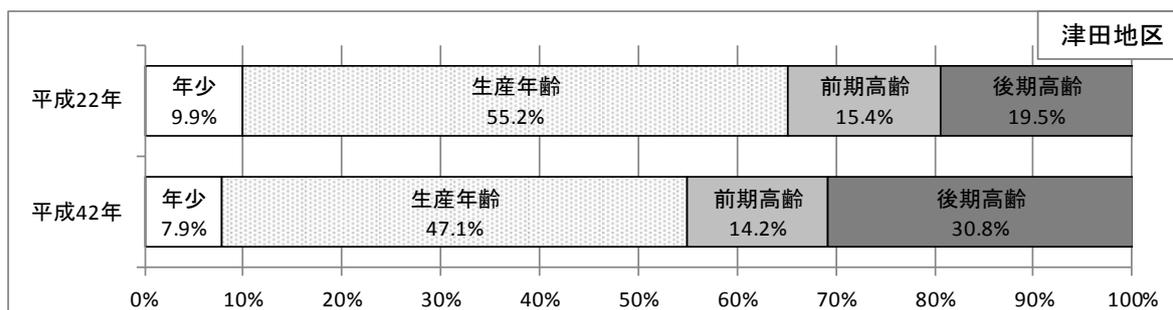
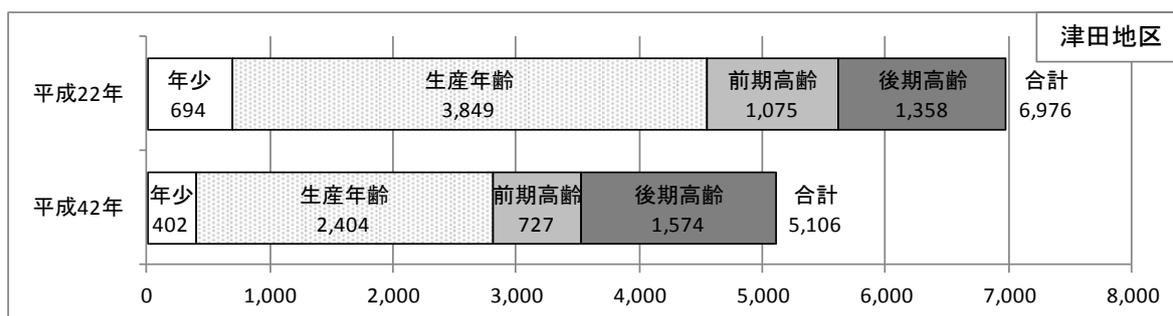


(2) 人口動向

津田地区の平成 22 年国勢調査における人口は約 7 千人で、さぬき市全体の人口の 13% が居住しています。

将来人口（平成 42 年）は約 5 千人と予測され、平成 22 年から平成 42 年までの 20 年間の人口減少率は▲26.8%で 5 地区の中で最も大きくなっています。

また、65 歳以上の高齢者人口の割合についても平成 22 年で 34.9%、平成 42 年で 45% と 5 地区の中で最も多くなっています。



注 1：平成 22 年の人口は、平成 22 年に実施された国勢調査による小地域人口を集計したものである。

注 2：平成 42 年の人口は、国立社会保障・人口問題研究所が公表している「日本の地域別将来推計人口（平成 25 年 3 月推計）」のさぬき市の将来推計人口に基づき、本書で推計した結果である。

注 3：図中の数字は、端数処理の関係から、合計と一致しない場合がある。

図 津田地区の人口動向

(3) 公共施設の配置状況

津田地区の公共施設は 70 施設、52,999 ㎡であり、全市の公共施設数の 21.3%、床面積の 18.0%が配置されています。

施設別には、人口の割合（13%）に対して、保健施設、スポーツ施設、物産施設、供給処理施設等が多く配置されています。また、ホール、図書館、レクリエーション施設等は配置されていません。

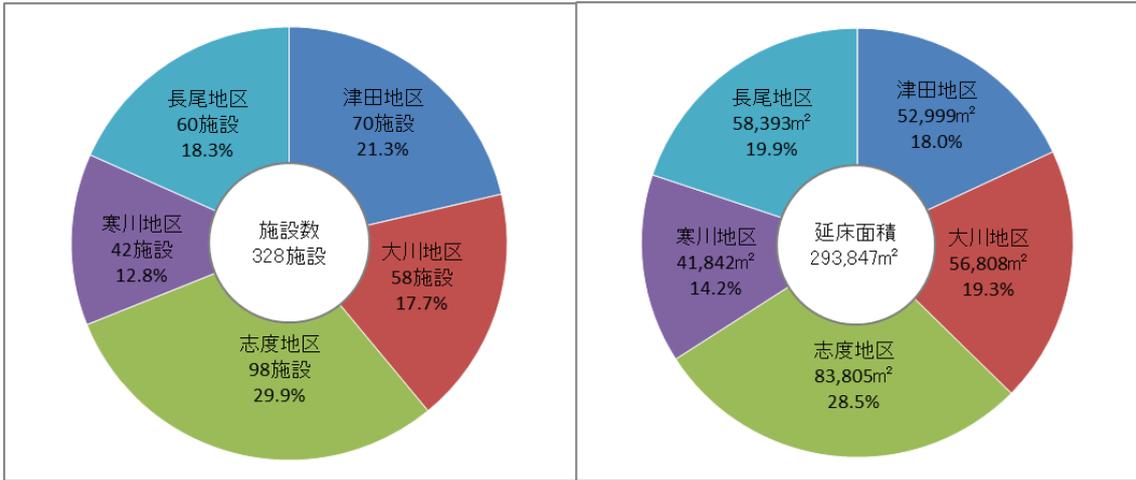


図 公共施設の地区別配置状況

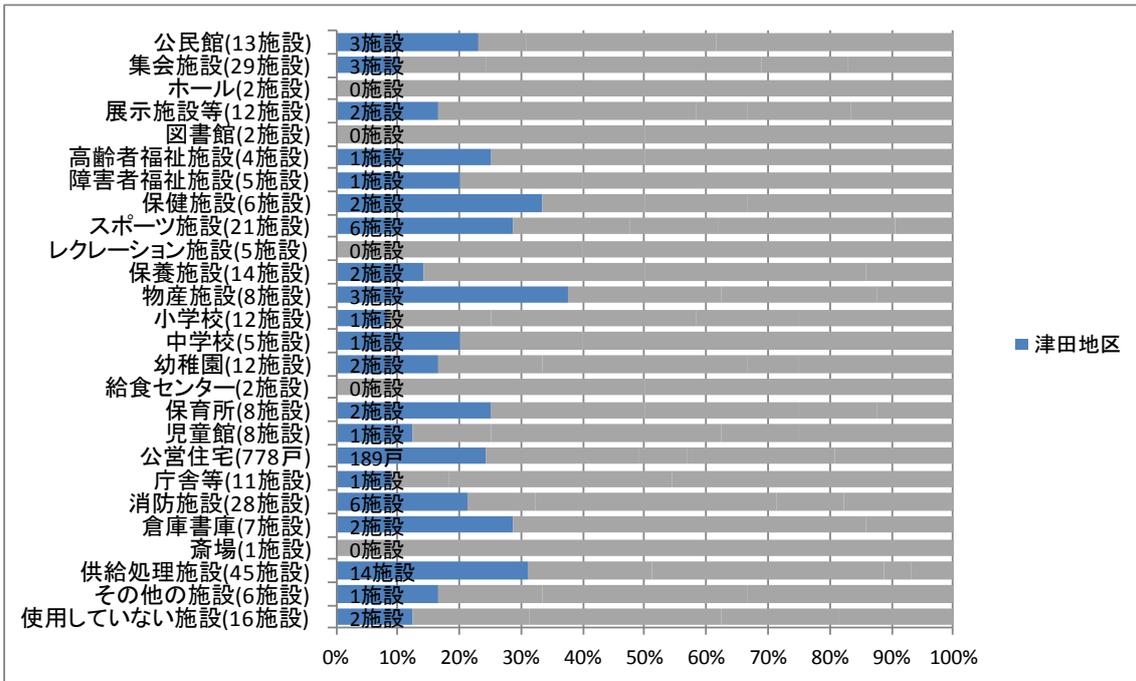


図 全市に占める津田地区の公共施設の割合

(4) 公共施設に関わる課題

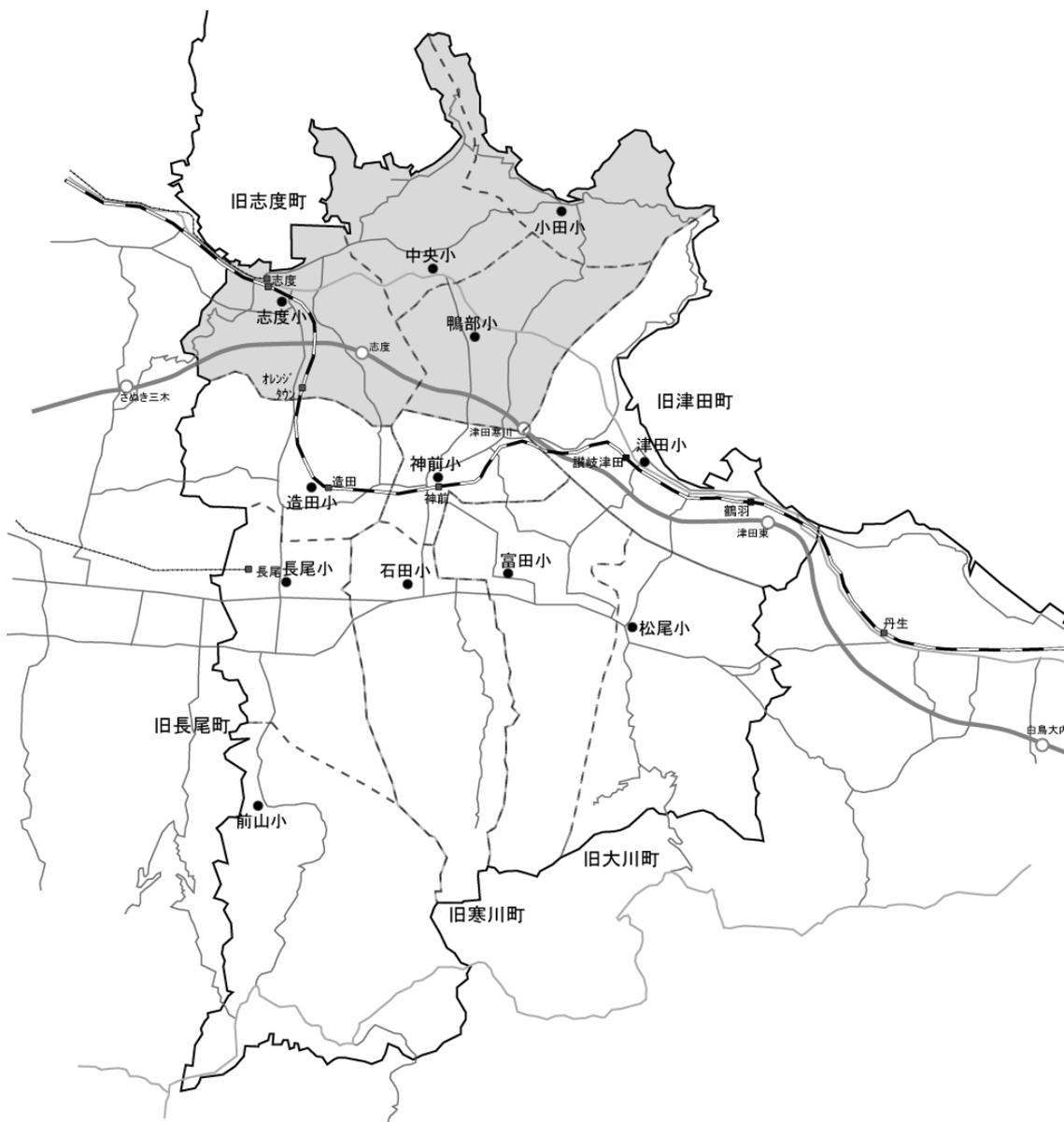
津田湾の海岸部の市街地は津波浸水区域内にあり、東南海・南海地震発生時には大きな被害が発生するものと予測されます。津田公民館・津田支所をはじめとして、多くの公共施設が配置されていることから、避難所などの防災上の拠点の安全確保について検討を進める必要があります。

3-2. 志度地区（旧志度町）

（1）地域特性

さぬき市の北西部の志度湾に面した位置にあり、国道11号やJR高徳線志度駅、高松琴平電気鉄道志度線の終点志度駅を中心に、市役所や警察署等の公的機関が集積し、中心市街地が形成されています。内陸部の丘陵地帯では大規模な宅地開発が行われており、高松市のベッドタウンとして人口増加が進んだ地域です。

大串半島や漁業・農業資源を活かした臨海型観光・レクリエーション・交流拠点、および平賀源内生誕地・志度寺・音楽を活かした文化拠点、臨海部工業集積や大学基盤を活かした新たな産業振興の拠点としての役割が期待されています。

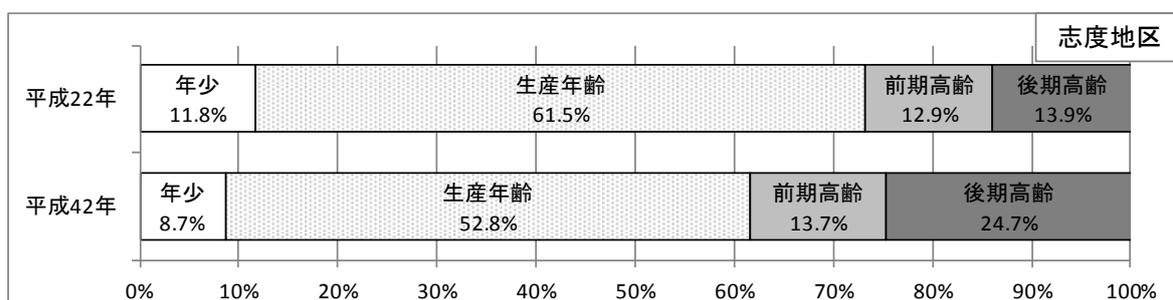
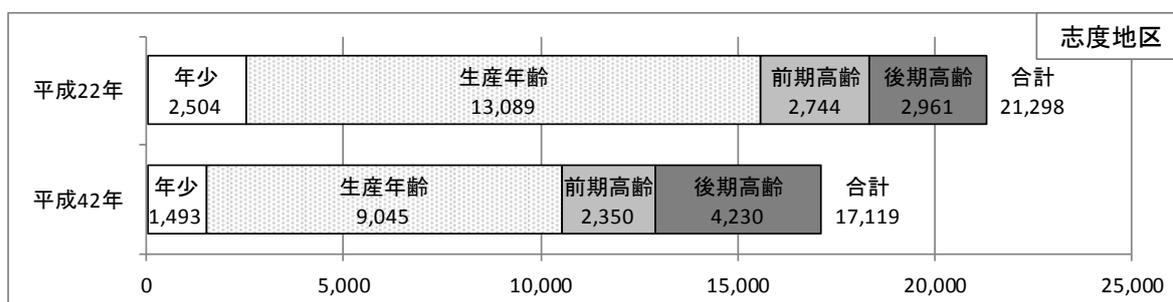


(2) 人口動向

志度地区の平成 22 年国勢調査における人口は約 2 万 1 千人と 5 地区の中で最も多く、さぬき市全体の人口の 40%が居住しています。

将来人口（平成 42 年）は約 1 万 7 千人であり、平成 22 年から平成 42 年までの 20 年間の人口減少率（▲19.6%）も、5 地区の中で最も少なくなっています。

65 歳以上の高齢者人口の割合は、平成 22 年で 26.8%、平成 42 年で 38.4%と 5 地区の中で最も少なく、全市平均（平成 22 年：29.2%、平成 42 年：40.1%）よりも小さいことから、さぬき市の中では最も少子高齢化・人口減少の傾向が小さい地域であるといえます。



注 1：平成 22 年の人口は、平成 22 年に実施された国勢調査による小地域人口を集計したものである。

注 2：平成 42 年の人口は、国立社会保障・人口問題研究所が公表している「日本の地域別将来推計人口（平成 25 年 3 月推計）」のさぬき市の将来推計人口に基づき、5 地区の人口増減傾向が同一と仮定して本書で推計した結果である。

注 3：図中の数字は、端数処理の関係から、合計と一致しない場合がある。

図 志度地区の人口動向

(3) 公共施設の配置状況

志度地区の公共施設は 98 施設、83,805 m²であり、全市の公共施設数の 29.9%、床面積の 28.6%が配置されています。

施設別には、市役所（本庁舎）、さぬき市のホール（2 施設）が志度地区にのみ配置され、市内に 2 つある図書館のうち 1 つが配置されています。レクリエーション施設は配置されていません。

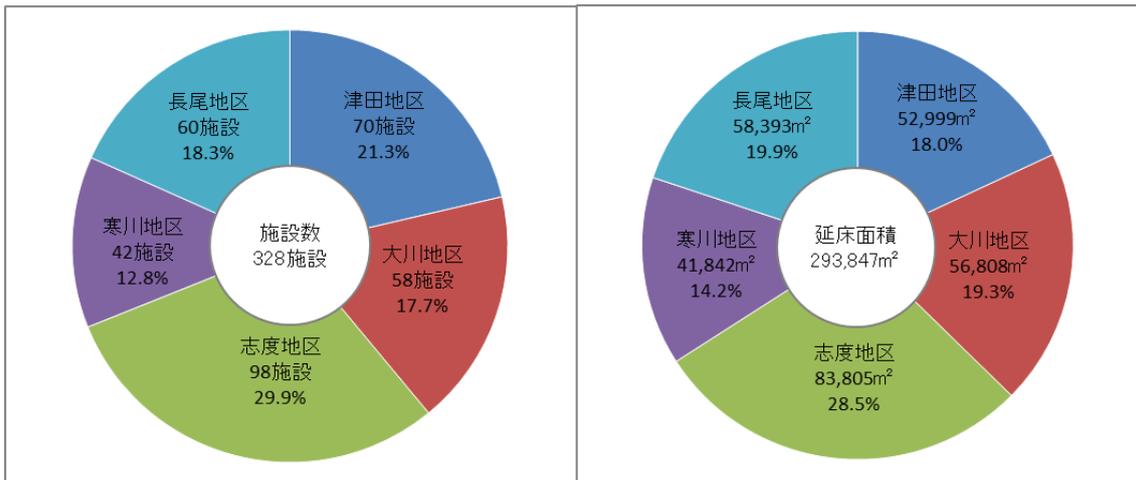


図 公共施設の地区別配置状況

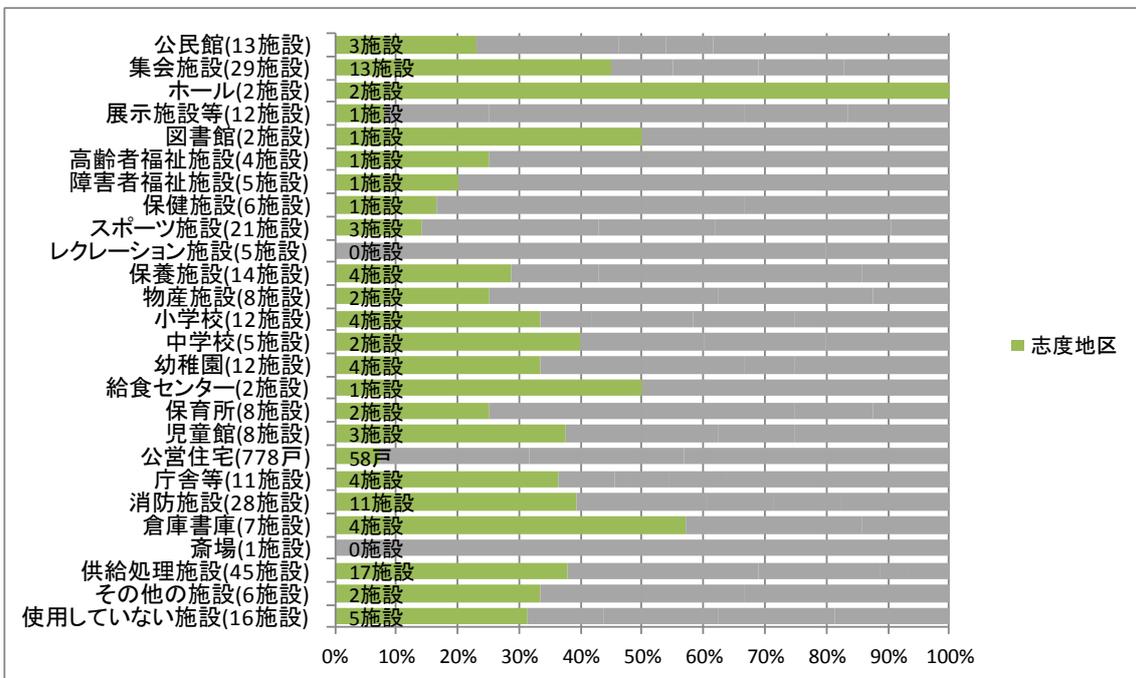


図 全市に占める志度地区の公共施設の割合

(4) 公共施設に関わる課題

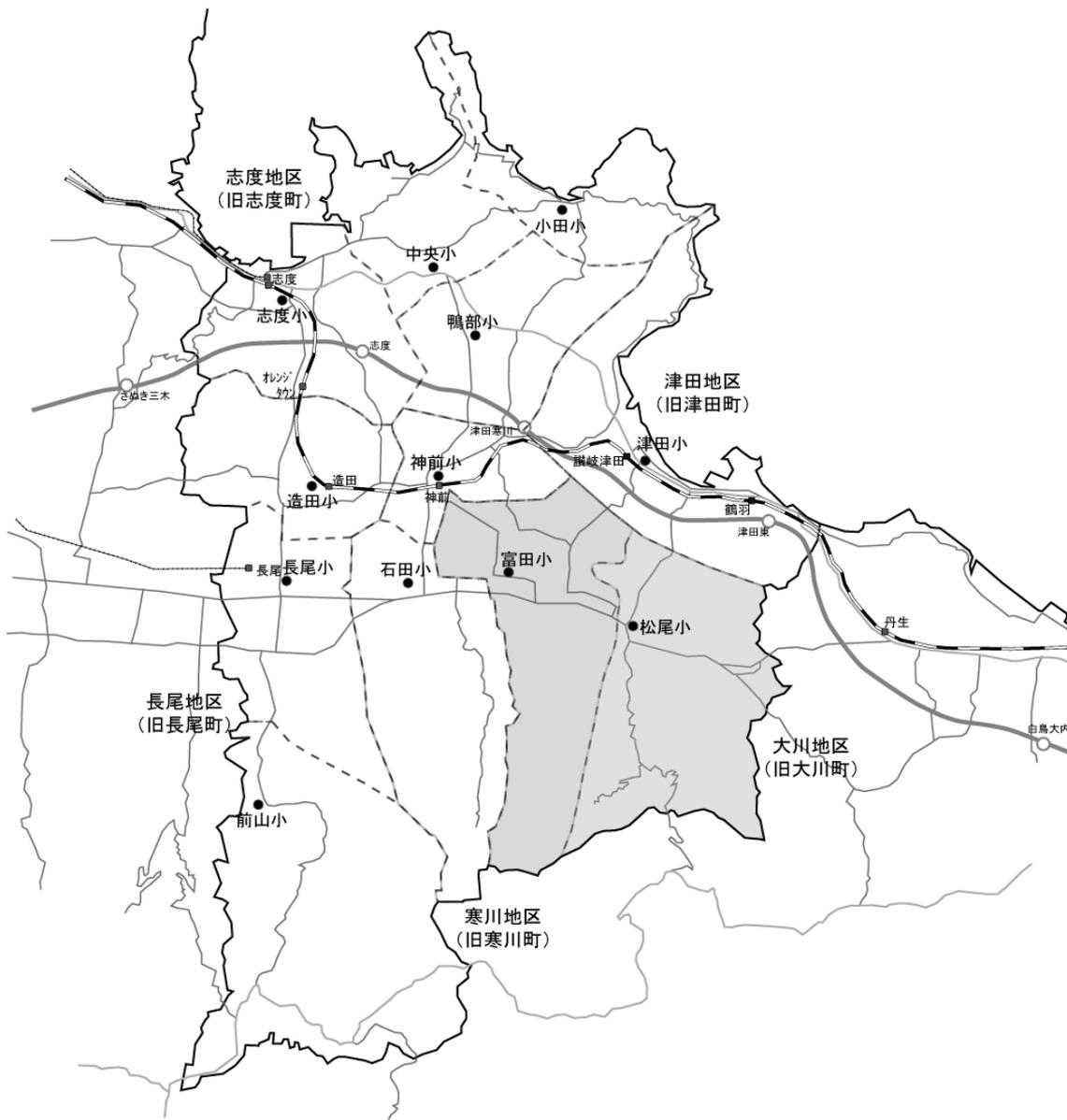
志度湾に面した志度駅周辺の海岸部の市街地は津波浸水区域内にあり、東南海・南海地震発生時には大きな被害が発生するものと予測されます。市役所（本庁舎）をはじめとして、多くの公共施設が配置されていることから、災害対策本部となる市役所や、避難所などの防災上の拠点の安全確保について検討を進める必要があります。

3-3. 大川地区（旧大川町）

(1) 地域特性

さぬき市の南東に位置し、県道 2 号線（さぬき東街道）沿いの平地部に市街地が形成され、また南側には讃岐山脈を抱えています。

みろく自然公園を活かしたアウトドアレジャー・自然体験学習型観光・レクリエーション・交流拠点、県下最大級の茶臼山古墳を活かした歴史文化拠点、農業基盤やふれあい市場を活かした農業振興の拠点としての役割が期待されています。

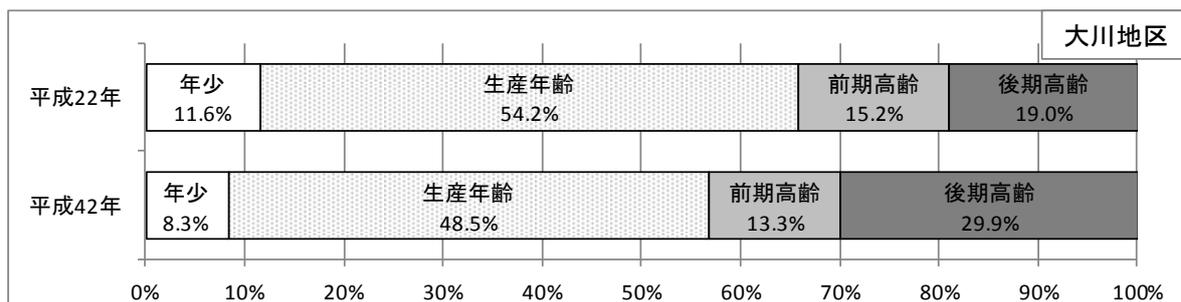
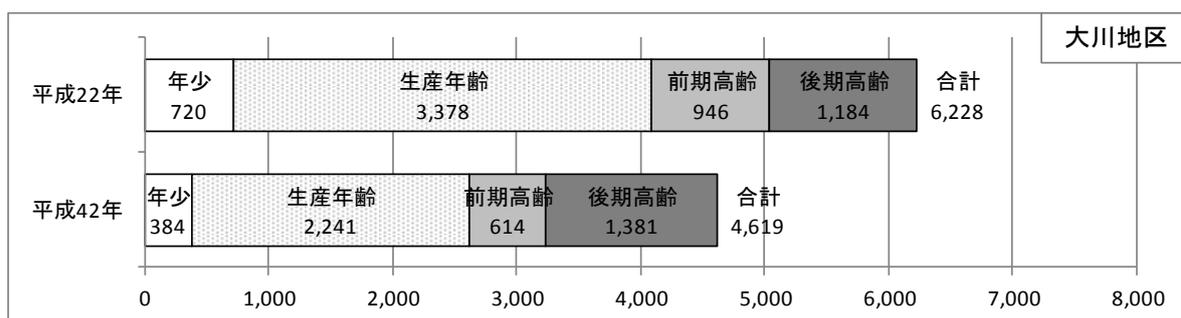


(2) 人口動向

大川地区の平成 22 年国勢調査における人口は約 6 千人で、さぬき市全体の人口の 12% が居住しています。

将来人口（平成 42 年）は約 4 千 6 百人であり、平成 22 年から平成 42 年までの 20 年間の人口減少率は▲25.8%と予測されます。

65 歳以上の高齢者人口の割合は、平成 22 年で 34.2%、平成 42 年で 43.2%であり、津田地区に続いて 2 番目に多くなっています。



注 1：平成 22 年の人口は、平成 22 年に実施された国勢調査による小地域人口を集計したものである。

注 2：平成 42 年の人口は、国立社会保障・人口問題研究所が公表している「日本の地域別将来推計人口（平成 25 年 3 月推計）」のさぬき市の将来推計人口に基づき、5 地区の人口増減傾向が同一と仮定して本書で推計した結果である。

注 3：図中の数字は、端数処理の関係から、合計と一致しない場合がある。

図 大川地区の人口動向

(3) 公共施設の配置状況

大川地区の公共施設は 58 施設、56,808 m²であり、全市の公共施設数の 17.7%、床面積の 19.4%が配置されています。地区内には小学校区が 2 つあり、地区内の大半の公共施設が富田小学校区に配置されています。

施設別には、展示施設、レクリエーション施設が多く、市内に唯一の斎場も大川地区に配置されています。

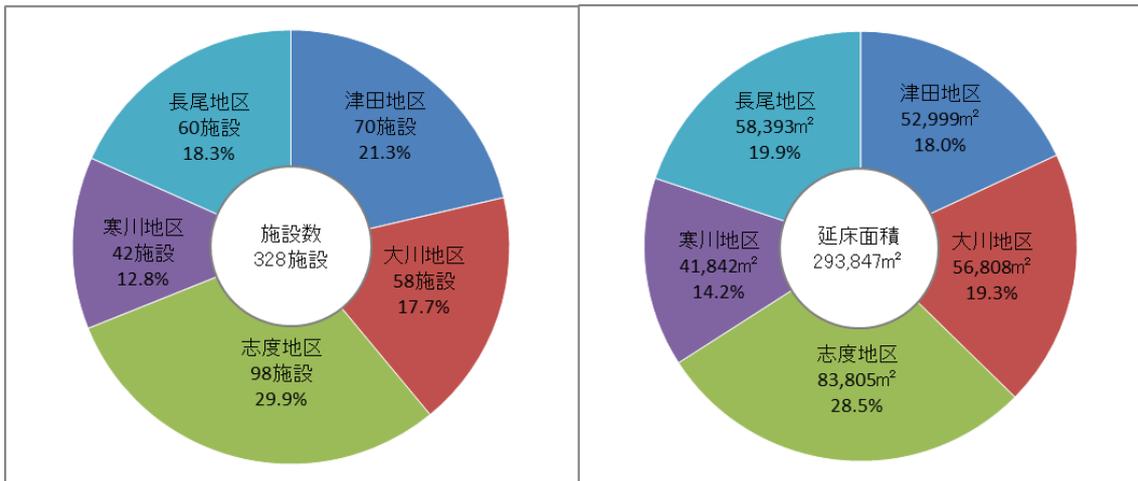


図 公共施設の地区別配置状況

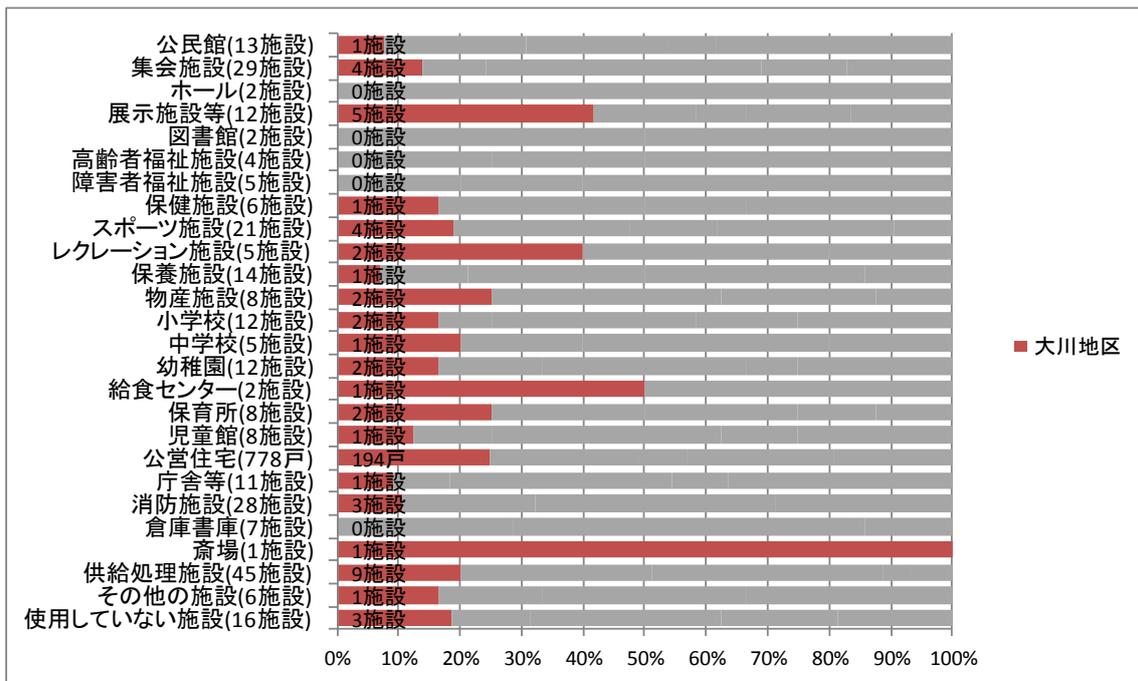


図 全市に占める大川地区の公共施設の割合

(4) 公共施設に関わる課題

隣接する津田地区では、東南海・南海地震発生時には大きな被害が発生するものと予測されます。内陸部にあり津波浸水の危険性がない大川地区では、津田地区の防災拠点のバックアップを含めて避難所などの防災上の拠点における機能強化などの検討を進める必要があります。

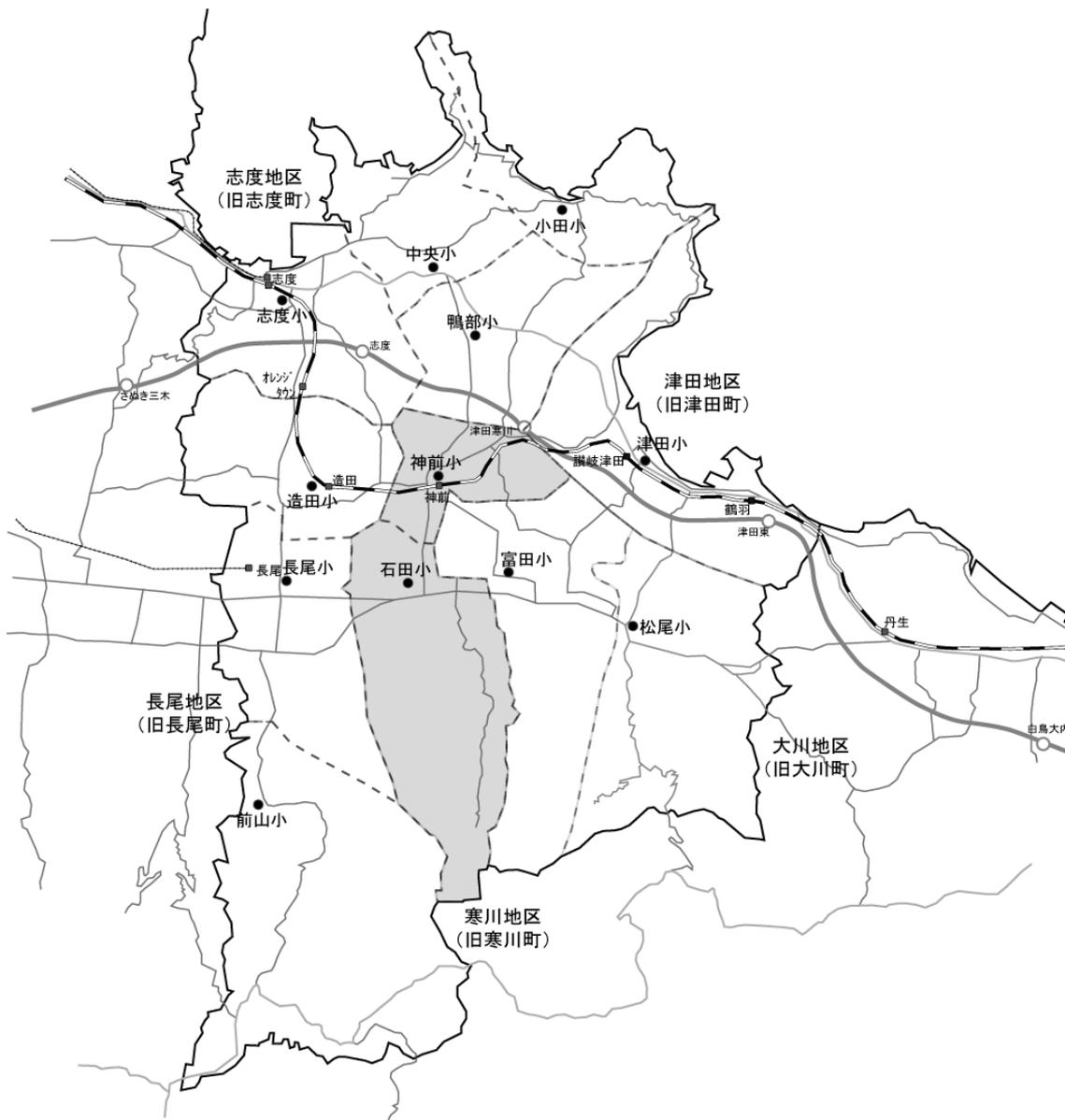
既に各地区にある小学校と幼稚園の統合が決定していますが、その跡地利用や大川支所の有効活用などについて検討していく必要があります。

3-4. 寒川地区（旧寒川町）

(1) 地域特性

さぬき市の内陸部に位置し、県道2号線（さぬき東街道）沿いの平地部に市街地が形成され、また南側には讃岐山地を抱えています。

さぬき市民病院を核とする医療拠点、カメラリア温泉・春日温泉・寒川高校看護科・農業基盤等を活かした総合的な健康・医療・農業振興の拠点、門入の郷や森林資源を活かした中山間部の観光・レクリエーション・交流拠点としての役割が期待されています。

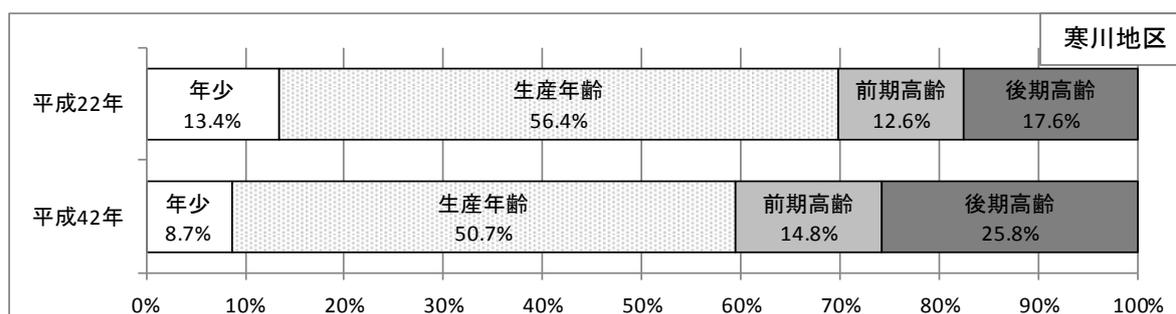
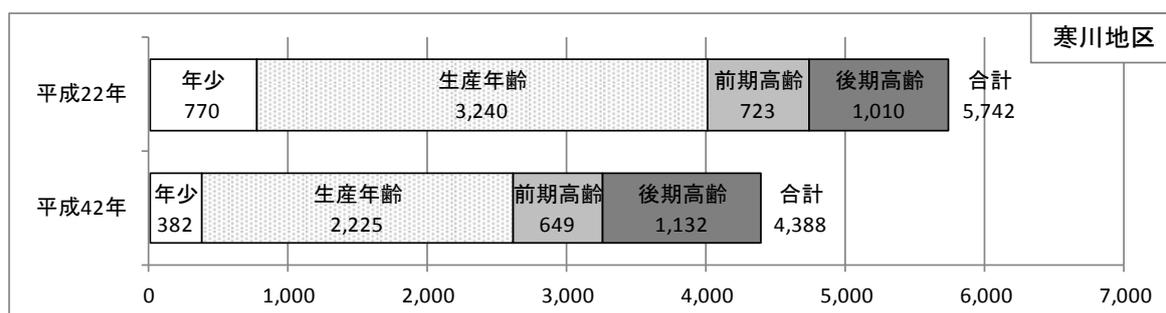


(2) 人口動向

寒川地区の平成 22 年国勢調査における人口は約 6 千人で、さぬき市全体の人口の 11%が居住しています。

将来人口（平成 42 年）は約 4 千 4 百人であり、平成 22 年から平成 42 年までの 20 年間の人口減少率は▲23.6%と予測されます。

65 歳以上の高齢者人口の割合は、平成 22 年で 30.2%、平成 42 年で 40.6%であり、津田地区、大川地区に続いて 3 番目に多くなっています。



注 1：平成 22 年の人口は、平成 22 年に実施された国勢調査による小地域人口を集計したものである。

注 2：平成 42 年の人口は、国立社会保障・人口問題研究所が公表している「日本の地域別将来推計人口（平成 25 年 3 月推計）」のさぬき市の将来推計人口に基づき、5 地区の人口増減傾向が同一と仮定して本書で推計した結果である。

注 3：図中の数字は、端数処理の関係から、合計と一致しない場合がある。

図 寒川地区の人口動向

(3) 公共施設の配置状況

寒川地区の公共施設は 42 施設、41,842 m²であり、全市の公共施設数の 12.8%、床面積の 14.3%が配置されています。地区内には小学校区が 2 つあり、地区内の大半の公共施設が石田小学校区に配置されています。

施設別には、スポーツ施設と保養施設が多く配置されている一方で、他の地区に配置されている保健センターと中学校は寒川地区にはありません。また、市内に 2 施設ある図書館の内、寒川図書館が配置されています。

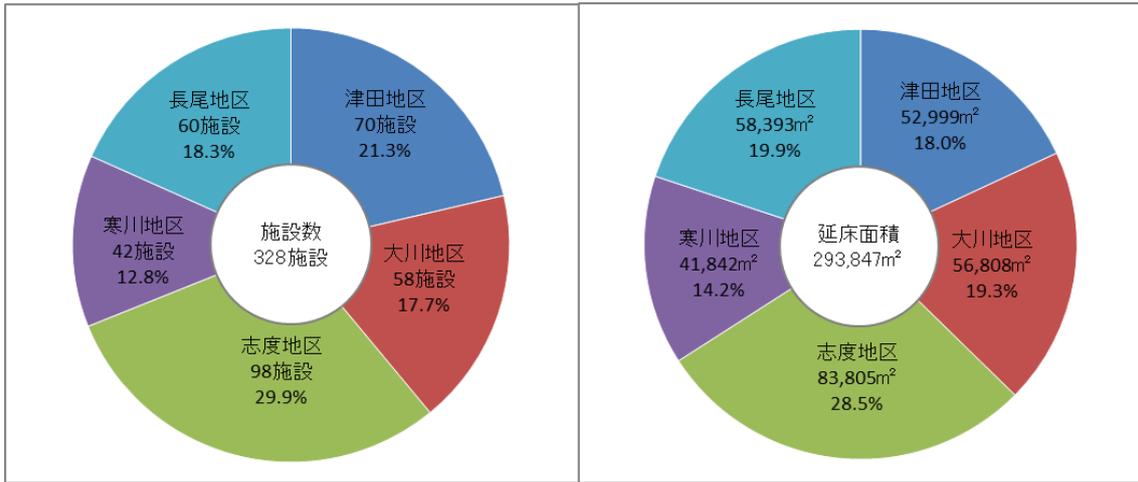


図 公共施設の地区別配置状況

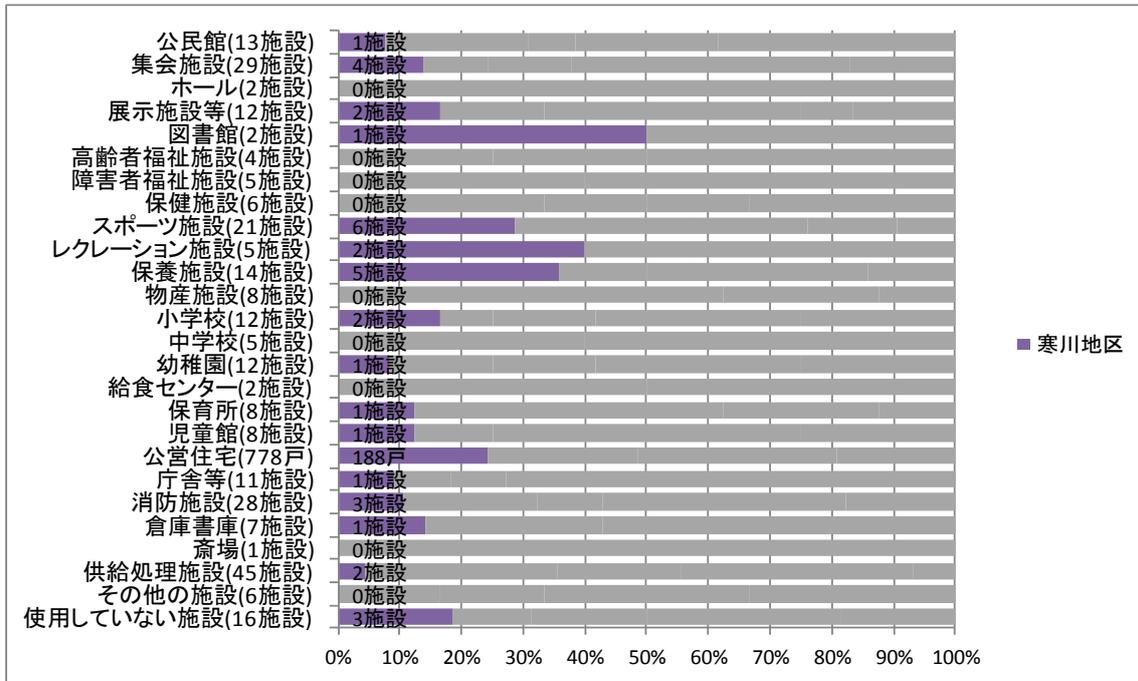


図 全市に占める寒川地区の公共施設の割合

(4) 公共施設に関わる課題

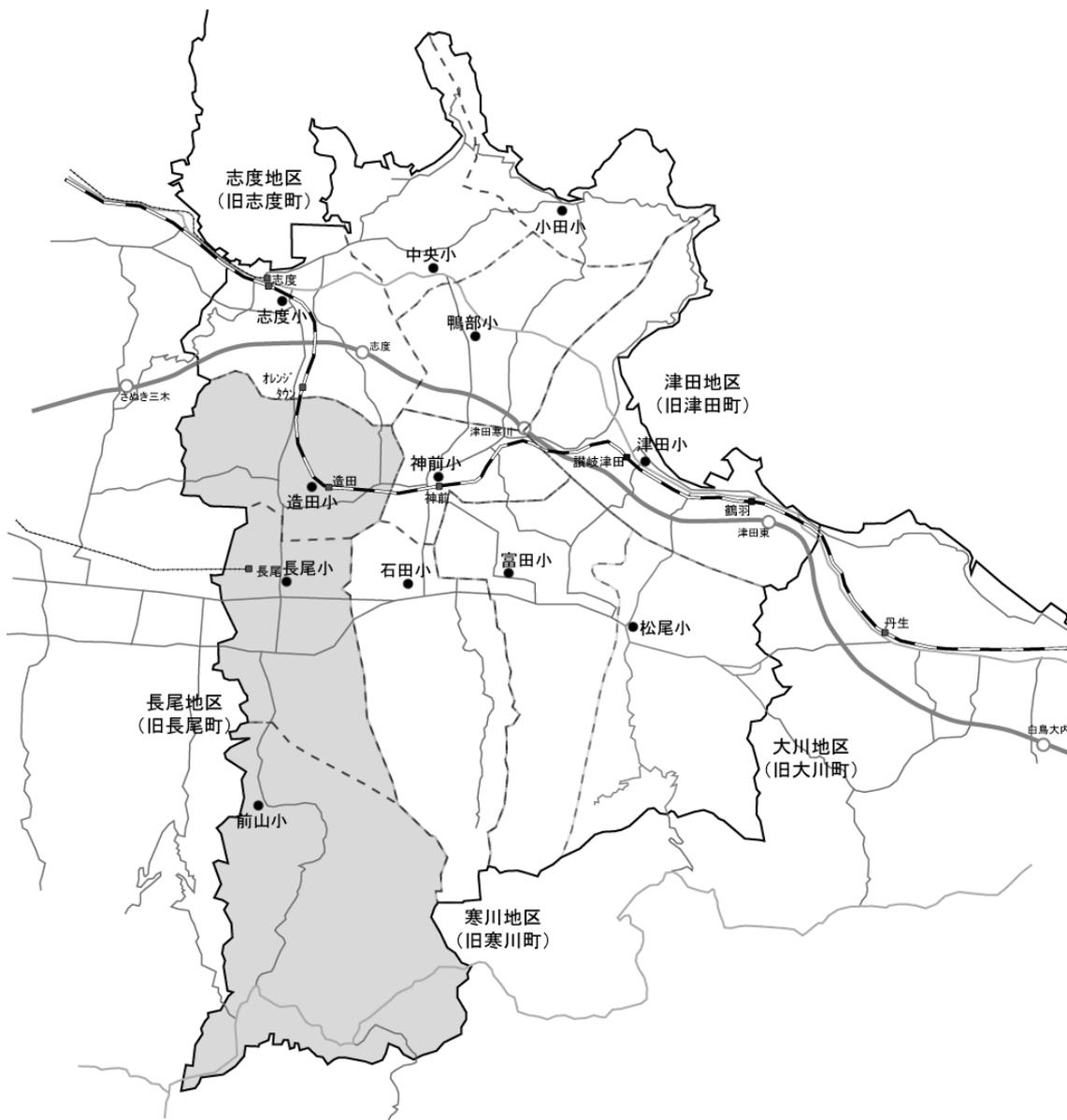
今後の人口の推移をみながら、寒川地区に2校ある小学校をはじめとして、公共施設の統廃合を検討していく必要があります。特に長尾街道沿いに集積配置され、老朽化も進んでいる寒川支所及び寒川農村環境改善センターなどの施設について、有効活用を含めて検討していく必要があります。

3-5. 長尾地区（旧長尾町）

（1）地域特性

さぬき市の南西に位置し、県道 2 号線（さぬき東街道）沿いの平地部に市街地が形成され、また南側には讃岐山脈を抱えています。最西端には高松琴平電気鉄道長尾線の終点長尾駅（琴電長尾駅）があり、高松市のベッドタウンとして人口増加が進んだ地域です。

長尾寺・大窪寺・亀鶴公園・長尾総合公園・ツインパルながおを活かした観光・レクリエーション・交流拠点、食品加工団地やファクトリーパーク、農業基盤を活かした工業振興・農業振興の拠点としての役割が期待されています。

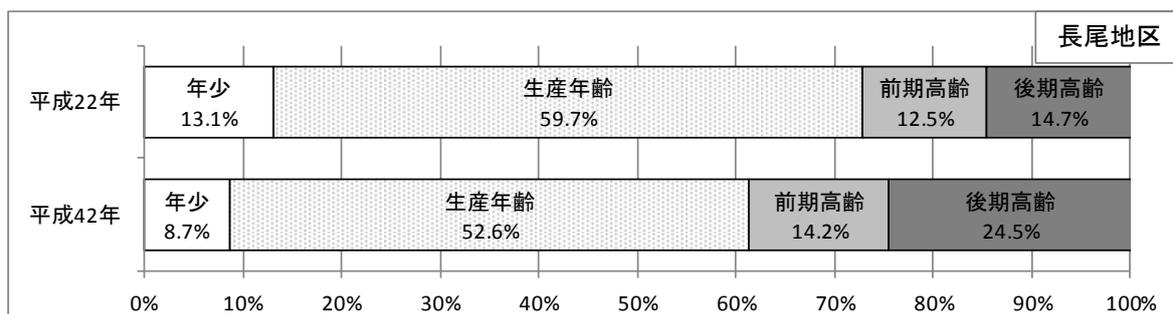
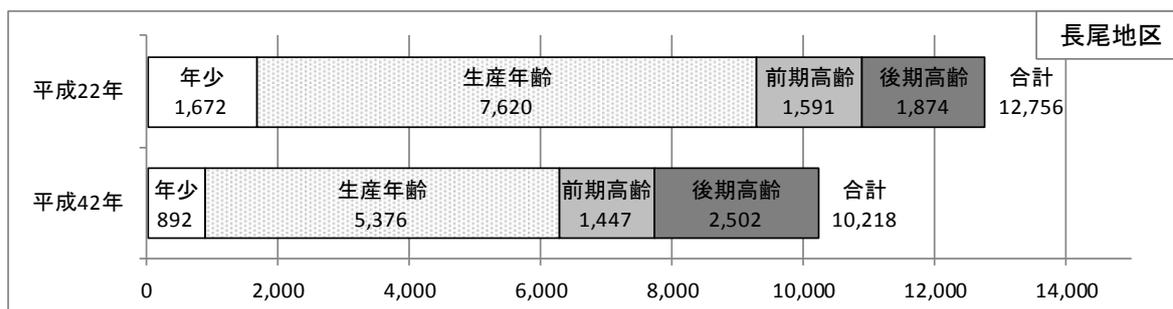


(2) 人口動向

長尾地区の平成 22 年国勢調査における人口は約 1 万 3 千人で、さぬき市全体の人口の 24%が居住しています。

将来人口（平成 42 年）は約 1 万人であり、平成 22 年から平成 42 年までの 20 年間の人口減少率は▲19.9%で、志度地区に続いて 2 番目に少ない水準にあります。

65 歳以上の高齢者人口の割合は、平成 22 年で 27.2%、平成 42 年で 38.7%であり、志度地区に続いて 2 番目に少ない水準にあります。



注 1：平成 22 年の人口は、平成 22 年に実施された国勢調査による小地域人口を集計したものである。

注 2：平成 42 年の人口は、国立社会保障・人口問題研究所が公表している「日本の地域別将来推計人口（平成 25 年 3 月推計）」のさぬき市の将来推計人口に基づき、5 地区の人口増減傾向が同一と仮定して本書で推計した結果である。

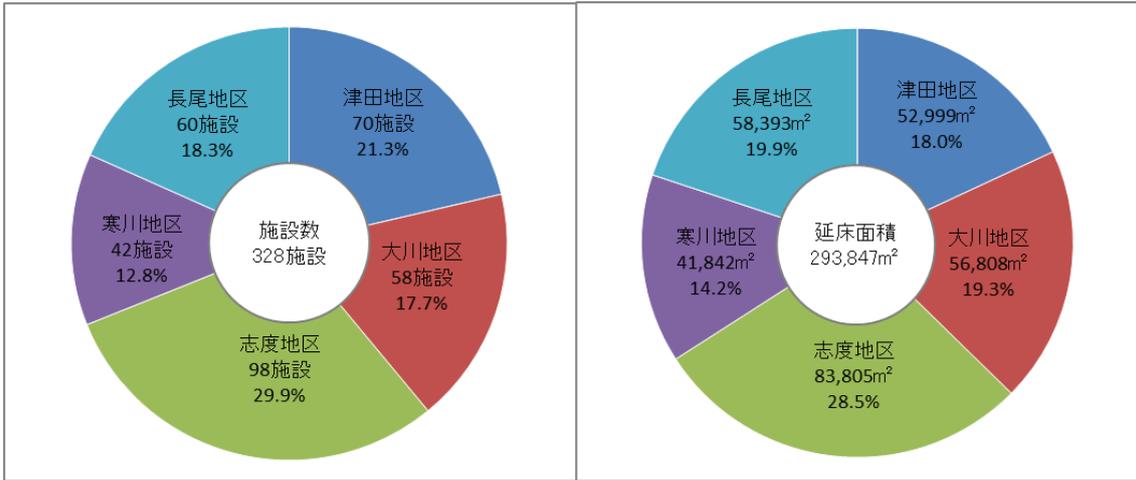
注 3：図中の数字は、端数処理の関係から、合計と一致しない場合がある。

図 長尾地区の人口動向

(3) 公共施設の配置状況

長尾地区の公共施設は 60 施設、58,393 m²であり、全市の公共施設数の 18.3%、床面積の 19.9%が配置されています。長尾地区内には既に廃校となった多和小学区を含めて 4 つの小学区がありました。公共施設の大半は長尾小学区に配置されています。

施設別には、分館を含めて公民館が多く、また、社会福祉協議会の本所があることを含めて高齢者福祉施設、障害者福祉施設が多く配置されています。



公共施設の地区別配置状況

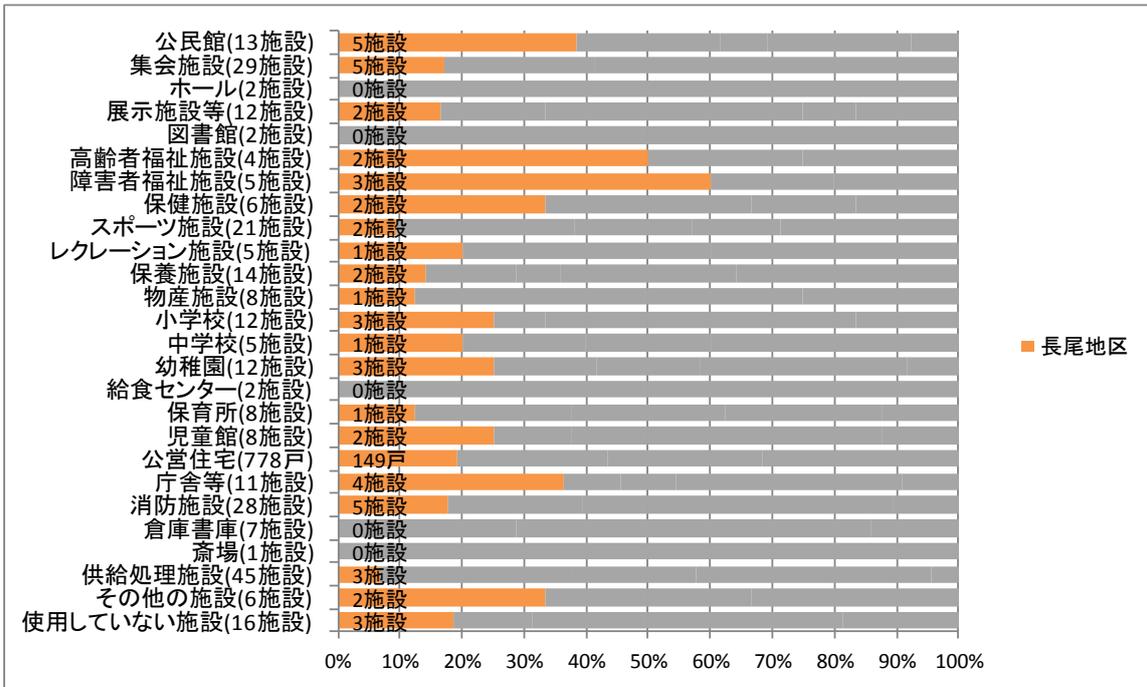


図 全市に占める長尾地区の公共施設の割合

(4) 公共施設に関わる課題

今後の人口の推移をみながら、公共施設の統廃合を検討していく必要があります。一方で、人口が少ない前山小学校区では、今後の施設の再配置に伴い公共施設のサービス水準が極端に低くならないように、公共交通機関との連携などを含めて考えていく必要があります。